

令和元年度南部地区道徳教育研究協議会指導講評より《指導のポイント（抜粋）》

【研究協議題：第1日】

『特別の教科 道徳』の趣旨を踏まえ、『考え、議論する道徳』の授業を充実させるために、どのような工夫改善を図ることができるか。また、学習活動に着目した評価を行うに当たって、どのような工夫ができるか。

【「考え・議論する道徳」について】

- ・授業の大前提として、教師と子供たちの関係性が良いことが求められる。どんな意見でも、児童生徒同士が、お互いを認められる学級づくり・学級経営が大事である。
- ・考える、議論する道徳では、授業の中で自分との関わりで考えることが重要である。指導観を明確にすることや、実態把握、教材の特質などを活かしていくことが大切である。
- ・授業において、教師側のゴールを明確にもっていること。課題設定が的確にできていることが大事である。
- ・授業の中には、①価値理解②人間理解③他者理解④自己理解、4つの理解が含まれることが必要である。

【話し合いを充実させる方法について】

- ・コの字型の配置は「議論する」＝「話し合う」ときに相手の顔が見える上でとても有効である。座席配置の工夫には、きちんとした授業者の意図がなければいけない。
- ・「考え、議論する」とは、自分の考えを戦わせることではなく、交流させることである。そして、自分や相手の立場を視覚化する工夫（心情円盤や心情メーターで自分の考えを明示する、色分けして板書をする等）によって、考えの「見える化」を図ると、より活性化する。
- ・教師側が出てきた考えを絞りこむ・再構成する・考えを揺さぶる、などをすると、より話し合いが活発になる。

【道徳科の評価について】

- ・評価の視点については、①一面的な見方から、多面的・多角的な見方ができているか、②自分との関わりで考えているか、という視点を大事にする。評価する際には、大きくくりなまとまりで、計画的に評価する。
- ・学習状況を様々な方法で捉え評価をすることで、子供の個々の成長を促すことになり、さらに、意欲をもって取り組むようになる。
- ・授業の最後、児童生徒に振り返らせるときは、振り返りの視点をきちんと示すことが大切である。また、アンケートの結果を貼ったりすることで、そこから変容をみとることも考えられる。

【小・中学校間の連携、家庭との連携について】

- ・道徳ノートは、授業で学んだことや子供の考えなどを家庭に返すことができる。ぜひ有効活用してほしい。
- ・小・中学校の連携の視点から、それぞれの学習指導要領に小学校1・2年生、3・4年生、5・6年生、中学生の内容項目が記載されているので目を通してから授業に臨むようにするとよい。

【その他】

- ・道徳の授業において、子供たちと一緒に学ぶことに楽しさを感じてもらいたい。時には、子供たちの考えが、教師の考えを超えることもあるが、それも含めて、道徳の授業は楽しいものである。

【研究協議題:第2日】

『特別の教科 道徳』を含む新学習指導要領の趣旨を踏まえ、自校の道徳教育の一層の充実を図るためには、全教職員の協力体制の確立、家庭・地域社会との連携が重要である。道徳教育推進教師として、どのような役割を担い、工夫改善をすればよいか。

【道徳教育推進教師の役割や工夫改善について】

- ・推進教師の位置づけの確認をする。道徳教育目標の明確化（重点項目を示す等）を図る。
- ・推進教師の心構えとして、他の先生方の協力を得ながら、みんなが取り組めるものを「コーディネート」していくことが大切である。先生方に多くを求めすぎないようにすること。
- ・やるべきことにきちんと優先順位を付けること。道徳教育推進教師が、自信をもって、学校の道徳教育を動かして欲しい。

【道徳教育の指導計画について】

- ・年間指導計画で押さえておくこととして、日常的に活用し、組織的に見直しや修正を図っていく、改善を促す手立てを考案する、低学年・中学年・高学年の間で、動きやすい組織で検討する時間を確保する、等がある。ただし、計画を安易に変更すると、内容項目の欠落が生じる場合等、不都合が生じるので注意する。
- ・年間指導計画は、校長先生の方針の明確化を図り、実効性のあるものとして推進していく必要がある。別葉を作成し、それをもとに全教育活動で指導が行われるようにする。別葉は活用できるように作成する。

【道徳の時間の充実と指導体制の確立について】

- ・全教職員の協力体制の確立に向けて、道徳教育に対する校長先生の意見（方針）が反映されているかどうかが大変である。
- ・授業の進め方の「スタンダード」は、道徳科の授業が苦手な先生でもやりやすいというメリットがある。一方で、授業が形骸化するデメリットもあるので注意する。

【小・中学校間の道徳教育の連携について】

- ・小・中学校間の連携は、現状としては課題の方が大きいかもしれない。学校間のお互いの授業を見合うことが大事であろう。子供の学びは続いていくものである。できることから始める。学習過程や振り返りの統一を図るなどの共有が大事になる。

【家庭や地域社会との連携について】

- ・家庭や地域社会への啓発などの活動として、地域に開かれた道徳教育の視点、コミュニティースクールを活用した取組、住民・保護者の参加を依頼しながら、巻き込む工夫、地域社会の強みを生かした体験活動やボランティア活動の利用、等がある。
- ・保護者との連携による指導として、「彩の国教育の日」の授業公開時の道徳の授業に参加を促す、保護者に役割演技に参加してもらったり、参観する際の授業の視点を示したりする、等がある。
- ・学級通信、学年通信、道徳通信のお便りやHPなどを通じて、本校の取組について積極的に公開する姿勢が欲しい。また、外部の人材を活用することは大変に効果がある。